懐かしさ感情が自伝的記憶の想起量に及ぼす影響

○瀧川真也¹・仲真紀子²

(¹川崎医療福祉大学医療福祉学部・²北海道大学大学院文学研究科)

キーワード：懐かしさ感情、自伝的記憶、想起量

The influence of nostalgic feelings on amount of recall of autobiographical memory

Shinya TAKIGAWA¹, Makiko NAKA²

(¹Kawasaki University of Medical Welfare, ²Hokkaido University)

Key words: nostalgic feelings, autobiographical memory, amount of recall

【目 的】

学生時代の卒業アルバムを見返した時など、不意に懐かしさを感じることもある。懐かしさが喚起されると、同時に自伝的記憶が鮮明に想起され、その当時に戻ったような感覚になることも少なくない。懐かしさ感情は、物や場面によって促される切ない感情であり、自伝的記憶や快感情を反映していると考えられている(Belk,1990; Cavanaugh,1989; 嶋田,1997)。また、楠見他(2008)によると、懐かしさの喚起には反復接触と時間経過が重要だと考えられている。

これまでの研究から、懐かしさ感情は認知機能に影響を与えたと考えられている。Batcho(1998)や小林他(2002)は、懐かしさが喚起されることで、自伝的記憶の想起量が増加することを示唆している。さらに、瀧川・仲(2011)は、懐かしさを感じると自伝的記憶の想起時間が短くなることを明らかにしている。しかし、先行研究(Batcho,1998; 小林他,2002)では、懐かしさ感情がどの時期の記憶に影響を与えているのかが明らかにされていない。そこで本研究では、懐かしさ感情が自伝的記憶の想起量に及ぼす影響を検討すると同時に、参加者が想起する記憶の時期を指定することで、懐かしさがどの時期の出来事に影響を及ぼすかを調べることを目的とする。

【方 法】

参加者 大学生 51 名(M=20.0 歳, SD=0.77)が参加した。本研究では、懐かしさを喚起させる刺激として、1999–2001 年に流行した音楽を使用したため、参加者は、音楽流行時に小学校高学年であった 19–21 歳の男女に限定した。

刺激材料 懐かしさを喚起させる刺激として音楽を使用した。懐かしい音楽は、大学生に予備調査を行い、Kinkikids『Flower』など 3 曲を用いた。

手続き はじめに、実験参加者が小学校高学年時に流行していた音楽を 1 分間呈示し、懐かしさ感情の強さを測定するため懐かしさ感情尺度(瀧川・仲, 2010)への回答を求めた。次に、同様の音楽を聴取させながら、音楽から想起される参加者自身が経験した小学校高学年の出来事を 1 つ記述させた。出来事の記述時間は 3 分間であった。さらに、同様の音楽を聴取させながら、音楽から想起される参加者の中学校の出来事を記述させた。記述する出来事の順序はカウンターバランスをとった。記述終了後、聴取した音楽の聴取経験の有無と、音楽を最も聴いていた時期(最接触時期)について回答を求めた。

【結 果】

懐かしさ感情が自伝的記憶の想起量に及ぼす影響を検討するために、出来事の記述量について、懐かしさと音楽との接触時期の 2 要因の分散分析を行った。音楽が流行していた時期の記憶よりも、音楽と接触の多い時期の記憶の方が懐かしさの影響を受けやすいと考え、本研究では、参加者の音楽の最接触時期をもとに、記述した出来事(小学校高学年、中学校)

を音楽の高接触群と低接触条件に分けた。

分析の結果、音楽への接触時期の主効果と交互作用が有意であり(接触時期: $F(1,49)=4.72, p<.05$; 交互作用: $F(1,49)=12.29, p<.01$)、懐かしさの主効果はみられなかった。交互作用がみられたため、単純主効果の検定を行った結果、懐かしさ高群で、音楽高接触時期の出来事の平均記述量が低接触時期よりも有意に多かった($F(1,49)=16.12, p<.001$)。さらに、音楽高接触条件において、懐かしさ高群の平均記述量は、懐かしさ低群よりも有意に多かった($F(1,98)=6.49, p<.05$)。

Figure 音楽聴取における自伝的記憶の想起量

【考 察】

本研究から、音楽により懐かしさが喚起されると、音楽をよく聴いていた時期の記憶について多くのことを想起することが明らかとなった。この結果は、懐かしさを感じることにより自伝的記憶の想起量が増加するとする知見(Batcho,1998; 小林他,2002)を支持し、拡張するものだといえる。先行研究では懐かしい音楽は、その音楽が流行した時期の記憶の想起を促進させると考えられていた。しかし、音楽は必ずしも、音楽の流行していた時期の記憶を活性化させるのではなく、個人がその音楽と最も接していた時期の記憶を活性化させることが明らかとなった。これは、懐かしさの喚起には反復接触が重要だとする楠見他(2008)の見解と一致するものである。

また、聴取経験のある音楽に対し懐かしさを感じると、音楽との接触が高い時期の記憶の想起量が、他の時期に比べ増加するという結果は、自伝的記憶の時間的体制化(Anderson & Conway, 1993)を支持するものであるといえる。つまり、懐かしい音楽を聴いていた時期の記憶が活性化しても、時間的に異なった場所に保持されている、異なった時期の記憶が活性化されなかったと考えられる。

【引用文献】

瀧川真也・仲真紀子 (2011). 懐かしさ感情が自伝的記憶の想起に及ぼす影響：反応時間を指標として 認知心理学研究, 9, 65-73.